

八王寺の大白藤

真宗仏光寺派・銀山安了寺の境内に白藤の巨木がある。幹回り約7m余、無数の枝が四方に広がり、その枝張りは東西約30m、南北約20m、高さ約3m。

毎年5月初旬から中旬にかけての開花期に、優雅な白い花房が無数に垂れ下がる。

安了寺十世義堂在世時、既に存在していたといわれ、樹齢約350年と推定されている市内屈指の名木である。貞享年間(1684~1688)、真宗大谷派から真宗佛光寺派に転派したとき、本山佛光寺の正紋である佛光寺藤にちなんで植えられたと伝えられている。

古来「松濤園の藤」ともてはやされ、昭和33年(1958)3月、県の文化財(天然記念物)に指定された。その後、昭和42年1月、市民による「白藤保勝会」が結成され、樹勢退化防止のため毎年、根回りの掘さく、施肥、枝の剪定、開花後の実もぎなど、地元市民を中心に協力を得ながら記念物保存に努めている。

昭和33年3月5日 県指定文化財天然記念物

【所在地】

燕市八王寺962番地 安了寺境内

